



## 企業プロフィール

- 設立：1993年
- 事業内容：交通安全施設業、工場内の安全施設、駐車場ラインの設計・施工など
- 従業員数：25名（2015年8月現在）
- 年次有給休暇の取得率：85%
- 年間休日数：108日
- URL：http://www.nlg.co.jp/

## 配偶者出産時特別休暇、義務教育終了までの育児有給休暇



## 年次有給休暇、特別休暇の取得率アップで、作業効率も向上

## ポイント

- ① 子育てと仕事の両立を支援する特別休暇の取得を推進
- ② 社員全員で制度を考え環境改善

岐阜県岐阜市のアース・クリエイト有限会社は、従業員25人のうち男性が18人の建設会社。道路標識や路面標示の施工などを得意としている。現場は早朝や夜間の作業になることもある厳しい条件ながら、これまでに8人の男性従業員が配偶者出産時特別休暇（2週間）を取得。その後についても、子育てと仕事の両立を支援する義務教育終了までの育児有給休暇（無制限）制度を設けて支援している。

同社は、『岐阜県子育て支援エクセレント企業』に認定されたことをはじめ、2014年度は『イクメン企業アワード2014』（厚生労働省）のグランプリを受賞。男女にかかわらず、誰もが育児休暇を取得できる環境は、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現を目指してルールや環境の改善を図るとともに、技術力、人間力を磨くための勉強会やミーティングの積み重ね、一人ひとりの意識を高めて仕事のやり方を工夫してきた取組みの成果である。今回は同社の中石俊哉代表取締役と岩田良営業本部長にお話を伺った。

## あえて決めない特別休暇取得のルール

育児・介護休業法に基づく休暇に留まらず、独自の制度として、2週間の「配偶者出産時特別休暇」（以下、出産時休暇）や無制限の「義務教育終了までの育児有給休暇」（以下、育児休暇）制度があります。出産時休暇は、連続して取っても1日ずつ取っても、取りたいタイミ

ングで取得できる柔軟な制度にしています。子どもには病気やケガなど突発的なことがさまざまに起き、対処すべきことは色々出てきます。20日間の年次有給休暇に収まらないことがあるかと思しますので、特別有給休暇については、取得時期などをあえてルール化せず、社員同士で臨機応変にフォローし合うことに努めています。また、育児休暇も出産時休暇を取得し

た8人が活用しています。

社内イベントで互いの理解を深め  
休暇を取得しやすく

出産時休暇・育児休暇の取得は当社にとってマイナスではなく、会社全体で休業者をフォローし合う意識が醸成され、作業効率が向上するというプラスをもたらしました。この5年間で、時間外労働は大幅に減少し（2007年度年平均300時間 → 2013年度年平均110時間）、年次有給休暇の取得率は大幅にアップしました（2007年度20% → 2013年度85%）。リーマンショック後に落ち込んだ売上も徐々に回復し、上昇傾向です。

育児に関わる休暇を取得する従業員がまだ少なかった頃は社内における理解が浅く、必ずしも休みを取得しやすい環境にあったとは言えなかったのですが、「安心して働ける環境は家族の理解や支えがあってこそ」という考えのもと、バーベキュー大会や社内旅行、忘年会、新年会などは家族も参加できるイベントとして従業員が企画・運営し、実施するようになりました。そうするとお互いの子育てや家庭への理解が深まっていき、意識が変わっていきました。今では、年に1回、『子ども参観日』という、家族に仕事の様子や交通安全ルールを楽しく伝えるイベントも実施しています。



中石代表取締役(右)と岩田営業本部長

## 年間休日も従業員の声を反映

当社の仕事柄、急に現場の仕事が入ることもあるため、連休が少ない状況にあったのですが、従業員から「年間休日を事前に決めたい。連休を作りたい」という要望があがりました。はじめから無理だと言ってしまうとそれまでですし、みんなの士気も下がります。どんなことでも、まずどうしたらできるかを考えています。まだ試みの段階ですが、この日を休日にしようとあらかじめ想定したカレンダーを作成しました。連休づくりも、土日組と日月組を作って交替で取れる方法を提案し、それをもとに各事業部で随時調整していく取組みを具体化しています。

諦めずにやってみる。考えて試みる。少しずつでも状況を良くしていこうという目標を持ってやっています。こうした積み重ねと、誰もがオールラウンドプレイヤーになれるよう、現場だけでなく、取引先をまわる営業への配置換えも随時行ってきたことが、当社の強みになっています。

休暇制度  
利用者の声

妻が出産のために帰省するのを機に、社長から休みを取って支えるように促され2週間の出産時休暇をいただきました。職場に戻って2ヵ月ほどすると、別の従業員にも子どもが生まれることがわかり、同じように2週間の休みを取って…。そんなことが続くうちに、「今度は誰の子どもが生まれるよ」という話が自然に聞こえてくるようになり、出産時休暇の取得が定着していきました。私のように、これまでに出産時休暇を取得した男性従業員は8人います。2人目、3人目の子の誕生もあり、2度、3度と取得した人もいて、この7年

間に計14人の子どもが生まれました。最近、初めて女性従業員が出産・育児休業に入りました。

先日、下の子が原因不明の発熱により緊急入院した際は、妻が病院で付き添い、上の子どもたちは私が面倒をみました。もし会社が理解してくれなかったら、妻1人でどうなっていたことか…。そういうときに休める環境があり、また育児休暇も取れたことで、家族が私の仕事を理解し、応援してくれるようになりました。以前は帰りが遅くなると口論になることもあったのですが、今は全然違います(笑)。

(営業本部長 岩田良さん)